

# 本物の天然材を

## 追求していききたい

オサジマ

社長 箴島

浩さん



福岡県工業技術センター  
インテリア研究所

オサジマが、福岡県工業技術センターインテリア研究所との連携で、画期的な製品開発に取り組んでいる。天然鉱泉着色の新しいツキ板の開発である。この事業に対し「地域産業資源活用事業計画」の認定が昨年の十月十二日に下りている。この認定を受けると、五年間で最高三〇〇〇万円の補助が受けられるのだ。

オサジマはツキ板業界で定評のある企業である。これまでにホテルオークラ、シーガイアホテル、アクロス福岡のシンフォニーホールなどの壁面など、大手を数多く手がけてきた。しかし、最近のツキ板業界低迷には、危機感を募らせていたという。社長の箴島浩さんは、「なんとかしなければ！といった危機感がありました。



アクロス福岡のシンフォニーホールの壁面



覚えていますし、理論的には出来ることが分かっています。なので、以前から素材を着色する方法をずっと考えていました。」

それで、昨年からインテリア研究所との連携で船小屋温泉水で着色を試みる、ユニークな製品開発に取り組み始めたのだ。

でもなぜ船小屋温泉水だったのだろうか。「一つは地理的に近いこともありました。もう一つは健康志向です。化学薬品でなく、飲用にもなる点に注目しました。赤ちゃんがしゃぶっても大丈夫との安心感があります。」

そして更に船小屋温泉水は鉄分が多く、着色に適していると考えたからです。」

インテリア研究所でサンプル試験を重ねていく過程

美しさと風合いを持っていません。現在では素材自体を発色させているツキ板製品はありません。しかし私の子供の頃、そうした製品があったことを

で、素晴らしい発見に行き着いたのである。何だろうか？高級感ある風合いである。高級材である神代杉と同等のイメージと色合い、材質感を持つものになったのである。思わぬプレゼントである。

神代杉とは、神代の昔から眠りつづけているという意味で、天変地異により、偶然出来た貴重な環境により、千年単位で生きたま腐らず埋まつてしまった木をいう。主に秋田、山形、伊豆半島などで採掘され、高級日本建築の装飾や、工芸品の製作に用いる。のみを打った瞬間の木目は白いが、数十秒の間に空

気と光に触れ、みるみるうちに黒くなる。生命の息吹を感じさせる、神秘的な木、高級材である。

偶発的な要素もあって生まれた、高級感

ある天然着色ツキ板。しかも健康志向。箴島さんは競争力のある商品展開に向け、今準備を進めている。「実際製品化するとなると、まだ乗り越えなければならぬ、いくつものステップが残されています。現時点ではサンプルレベルでの成功ですから：」

さて、これからの夢は何だろうか。「これを製品化すると共に、さらに市場のニーズを捉えな

がら、バリエーションある天然着色ツキ板を開発することです。プリント写真を貼り付け、人工的に木目を作るツキ板が一般的になつている中、本物の天然材を追求していきたいと思えますね。本物はいつまでも残ると思えますから：。」

現状に手をこまねくのではなく、積極的に商品開発に取り組んだことが、「地域産業資源活用事業計画」の認定につながり、高級感ある着色法を見いだせた。箴島さんと話してみても、主体的に物事に取り組む大切さに気づかされた